

一般社団法人循環経済協会設立記念セミナー
「循環経済社会」を実現する革新的ビジネスの開発・実装に向けて
～循環経済協会の設立と ISO/TC323 における活動状況について～
(抄録)

当協会の設立にあたり、広く一般に対して循環経済を取り巻く状況や当協会の意義等への十分な理解を促すことを目的として、設立記念セミナーを開催しました。外部から講演者をお招きし、我が国における循環経済関連政策、ISO/TC 323 (循環経済) における国際標準化動向と活動状況、循環経済型ビジネスの意義等についてご講演いただきました。また、当協会会長も登壇し、当協会設立の意義について講演を行いました。約 400 名の方が本セミナーを聴講し、多くの参加者から様々なご質問をいただきました。

日 時	令和 3 年 7 月 1 6 日 (金) 15:00 ~ 17:00
場 所	Zoom (ウェビナー形式)
主 催	(一社) 循環経済協会
後 援	(一社) 産業環境管理協会 (一社) 資源・素材学会 / 包括的資源利用システム部門委員会 レアメタル研究会
参加人数	約 400 名 (時間帯で変動あり。参加登録者は 519 名)

プログラム

15:00~15:05	開会宣言 (一社) 循環経済協会理事 張田 真
15:05~15:35	基調講演：我が国における循環経済関連政策の紹介 経済産業省 産業技術環境局 資源循環経済課長 羽田 由美子 氏 課長補佐 山下 章仁 氏 環境省 環境再生・資源循環局 循環型社会推進室 専門官 前島 幸司 氏
15:35~16:05	循環経済協会の設立～革新的循環ビジネスの開発・実装～ (一社) 循環経済協会会長 中村 崇
16:05~16:30	ISO/TC323 (循環経済) における国際標準化動向と活動状況 ISO/TC 323/WG2 日本代表エキスパート 遠藤 功 氏
16:30~16:55	循環経済型ビジネスの最前線 三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング (株) 山本 雄一郎 氏
16:55~17:00	閉会挨拶 (一社) 産業環境管理協会 黒岩進 氏

1. 開会宣言

(一社)循環経済協会理事 張田 真

- 循環経済社会を構築するためには、これまでの廃棄物処理、リサイクルの概念を超えた新しいビジネスモデルを構築することが求められる。
- 業界、業種を横断したパートナーシップを結ぶ “つながる力” を構築する必要があることから、循環経済協会の設立に至った。志を同じくする方には、是非循環経済協会へご入会いただきたい。共に未来を切り開いていきたいと考えている。
- 本日のセミナーが参加者にとって有益となり、循環経済社会の構築に寄与することを祈念している。



2. 基調講演：我が国における循環経済関連政策の紹介

経済産業省産業技術環境局資源循環経済課長 羽田 由美子 氏

課長補佐 山下 章仁 氏

環境省 環境再生・資源循環局 循環型社会推進室 専門官 前島 幸司 氏

- 日本政府は線形経済から循環経済への移行を推進するために、企業取組みの後押し、海洋生分解性プラスチックに関する技術開発支援、プラスチック資源循環促進法の策定、循環経済に係る国際標準化支援などを行っている。
- 2021年3月、環境省、経済産業省、経団連は循環経済パートナーシップ（通称：J4CE）を設立した。国内企業を含む幅広い関係者における循環経済へのさらなる理解醸成と取組の促進、国際社会でのプレゼンセンス向上に向け、官民連携を強化していく。
- 企業は、循環経済に係る活動をCSRとしての取り組みとして捉えるのではなく、企業戦略や経済活動の枠組みとして捉えることが重要である。
- 循環経済協会が、企業の循環経済型ビジネスへの移行をサポートする場となることを祈念している。



3. 循環経済協会の設立～革新的循環ビジネスの開発・実装～

(一社)循環経済協会会長 中村 崇

- 近年、「モノよりコト」というフレーズに代表されるように、モノよりも情報が重要視されてきている。IoT等を活用しながら、バリューチェーン全体で循環を促し、循環経済を実現することが重要である。
- 現在、ISOをはじめとして、循環経済に関する様々なルール形成が行われている。他国に劣後しないよう、我が国から新たなビジネスのあり方を世界に打ち出していく必要がある。
- 循環経済協会は、海外動向の後追いではなく、我々が望ましいと思われる持続可能なビジネスの具体化とその実践を目指す。具体的には、循環経済に関する情報提供、ルール形成や政府提言を目的とした業界横断的な委員会、事業者間連携（コンソーシアム等の形成）等を目的とした委員会活動を行う予定である。会員企業と共に汗をかき、知恵を出し合いながら、委員会の活動を進めていきたい。



4. ISO/TC323（循環経済）における国際標準化動向と活動状況

ISO/TC323 WG2 日本代表エキスパート 遠藤 功 氏

- 2018年にISO/TC323（循環経済）が設置された。TC323では、循環経済に関する国際標準の策定に向け、議論が行われている。
- 現在、TC323には、5つのWGが設置されている。WG1は循環経済に関する用語、原則、フレームワーク等、WG2は循環経済ビジネスを推進する企業実務者向けの実践的アプローチ、WG3は循環経済の計測・評価、WG4は循環経済の事例、WG5は製品の循環経済に関する情報を報告・交換するための様式・方法論をそれぞれ扱っている。
- 循環経済に関する国際標準は、社会に新しい市場を創生する可能性があり、社会課題解決を目指す各企業の事業展開の助けとなることも想定される。企業は、国際標準の開発をチャンスと捉えて、TC323の活動へのご参画を検討いただきたい。



5. 循環経済型ビジネスの最前線

三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング(株) 山本 雄一郎 氏

- 循環経済は、規制対応・コスト削減にとどまらず高付加価値化を目指す切り口の一つと位置付けることもできる。また、事業における循環の単位(企業、サプライチェーン、横断ステークホルダー、国家等)を見直すことで、新しい事業体への転換を図るチャンスにもなりえる。さらに、循環経済を実現するためには DX の推進が不可欠である。循環経済への移行が、各産業・各企業の DX を持続的なものに変えようと考えている。
- 循環経済では、サプライチェーン横断的なプラットフォームが構築され、これは情報共有の動機付けともなる。新たなプラットフォームを通じて、ブロックチェーン等の技術活用や金融連携も進むと考えられる。
- 我が国で循環経済に関する取り組みを加速させるためには、環境分野の担当部門に事業成長戦略視点での企画・実行機能を持たせること、あるいは経営企画の部門が DX 等と紐づけて循環経済を先導することが求められる。各企業は、循環経済をトップアジェンダに位置付けたうえで、自社分析に基づいた KPI と組織設計に着手すると良いだろう。



6. 閉会挨拶

(一社)産業環境管理協会 黒岩 進 氏

- 産業環境管理協会は ISO/TC323 の国内審議団体系事務局を務めている。事務局業務を行う中で、ルールづくりに関わることの重要性を痛感している。
- 3R 分野等での優れた実績、高い技術力を有する我が国が ISO/TC323 に積極的に関わることは重要であろう。我が国産業が国際標準の策定において重要な役割を担う必要がある。
- この度の循環経済協会の設立を大変頼もしく思っており、循環経済協会とともに活動していけることを期待している。
- 循環経済協会と本セミナーに参加した企業の発展を心から祈念している。



(以上)